

鳥取県指定有形民俗文化財 智頭の林業関係資料

表1 林業の作業工程

主伐	成長した樹木(立木)を伐り枝葉を払って適当な長さに伐る(玉伐り)
集材・搬出	造材された樹木を林道や土場など市場等に運材する場所まで集める
地ごしらえ	伐採後に植え付けをするため、伐採木の枝葉や残木を取り除き整地する
植え付け	苗木を一定の間隔で植える(同時に獣害よけのための保護カバー等を設置)
下刈り	苗木よりも早く成長する雑草木などの刈払い
除伐・間伐	育成させたい樹木の成長を妨げる他の樹木の伐採(…除伐)。樹木の成長とともに密集した一部の樹木を伐採(…間伐)
枝打ち	節のない良質材を育成させるために下枝の伐採
製材	丸太を板や角材に加工する

(山形地区振興協議会2016を参考)

鳥取県文化財調査報告24,2020 より

山の仕事(林業)

林業における作業は、表1に示されているように、主伐、集材・搬出、地ごしらえ、植え付け、下刈り、除伐・間伐、枝打ち、製材のおおよそ8つの工程に分けることができます。智頭の林業関係資料として集められた林業用具もこれら8つの工程に対応した用途で用いられたものです。

主伐に用いられた林業用具

現在、主伐には主にチェーンソーが使われます。しかし、チェーンソーが普及する以前は、人力による伐採が行われ、オノ、ヨキ、各種ノコギリが使われました。第二次大戦後にチェーンソーが使われ始めましたが、当時は大きな天然木の伐採作業が多く行われたため、現在一般に使われているものよりも刃渡りの大きなチェーンソーが使われました。



オノ(資料No. 79)

伐倒に用いられます。幹の、切り倒す方向側に切れ込み(受け口)を入れるためによく使われました。

ソマヨキ(資料No. 80)

伐倒に一般的に用いられます。薪割にもよく使われます。

オオノコ(資料No. 3)

幹の、切り倒す方向と反対側から切れ込み(追い口)を入れて伐倒するためによく使われました。刃渡り61.7cm。



チェーンソー(資料No. 98)

全長121cm、刃渡り90cm
昭和30年代に使われたものです。

集材・搬出に用いられた林業用具

林道が十分に整備される以前は、主に人力や自然の力を利用した集材・搬出が行われました。その後、架線を使った索道集材が行われ、山奥では森林鉄道が整備されました。



木馬(キンマ)

キンマに木材を載せ、山の緩斜面を人力で搬出しました。



索道集材器(資料No. 134)

架線を張り、木材を吊るして山から搬出します。



沖ノ山森林鉄道で使われた機関車と貨車(資料No. 132, 133)

沖の山森林鉄道は智頭町芦津を起点に、沖の山山麓へと延びていた総延長16kmの森林鉄道です。大正11年(1922年)に敷設が始まり、昭和42年(1967年)頃まで使われました。林業の盛時を偲ぶシンボリックな資料で、全国から鉄道ファンが見学に訪れます。



オオトビ(資料No. 138)

玉切りして長さを揃えた木材を転がしたり、方向を変えたりするのによく使われました。汎用性が高いものです。



キリントビ(資料No. 15)

トビの改良型。オオトビ同様に木材を動かすために用いられました。